

データ契約ガイドライン検討会第一回資料

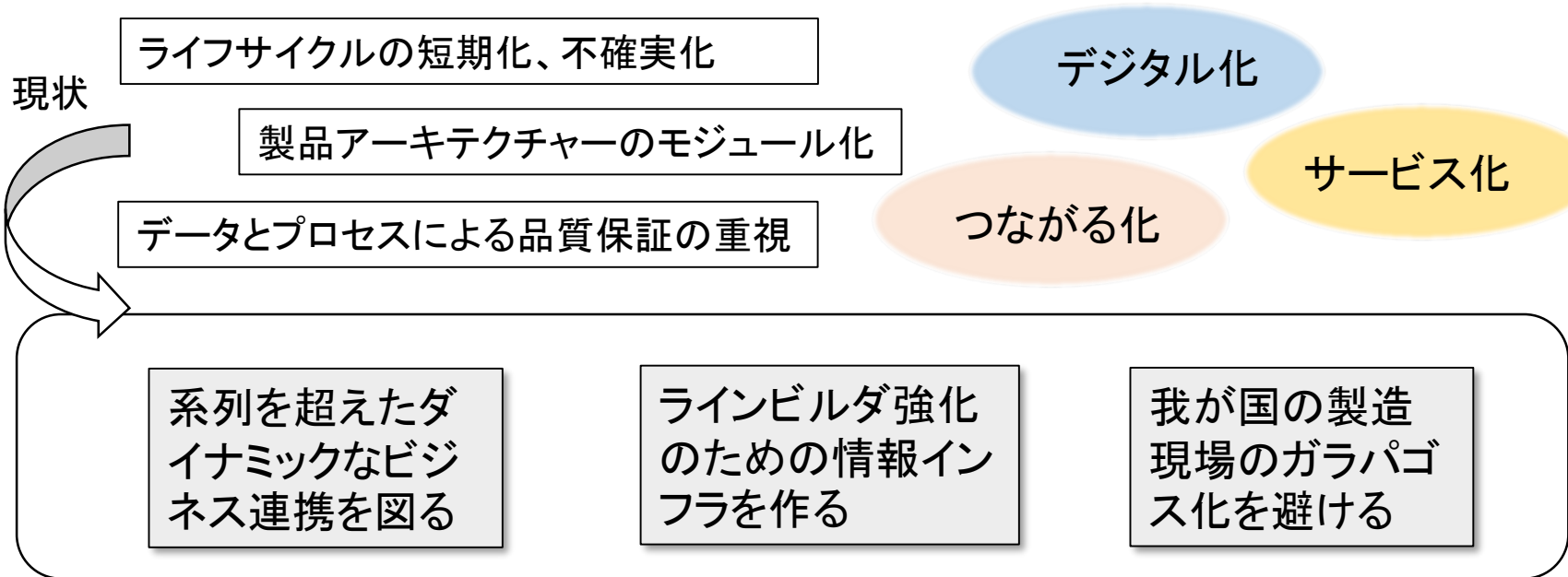
# データによる事業者間の 連携フレームワーク

2017年12月8日

西岡靖之

インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ

# なぜプラットフォーム連携なのか？



- ◆データオーナーシップの実装と展開
- ◆オープン&クローズ戦略の具体化
- ◆製造業のサービス化への対応
- ◆新たなものづくりベンチャー企業の支援
- ◆海外オペレーションと知財戦略
- ◆ビックデータ／ディープデータ利活用

グローバル・リーダーシップ

我が国の製造業の遺伝子をもつ企業を世界のリーダーにする

グローバル・ニッチトップ

オンリーワン技術をもつ小さな企業をグローバルマーケットに送り出す

ローカライズとおもてなし

個別のニーズに密着した企業の生産性を劇的に高める

# どうやって個社のプラットフォームを連携させるのか？

- ◆ゆるやかな標準(個別の差異をみとめ、6割を統合する)
- ◆データを扱う全ての機器を個体認証しセキュリティー確保
- ◆エッジ側より外側では、データ漏洩防止を技術的に保障
- ◆データプロファイルと契約ガイドラインで2者間の知財合意
- ◆企業間のデータ中継はブロックチェーン技術で分散管理

プラットフォーム連携は、2者間のデータ連携であり、  
第三者への流通は行いません。

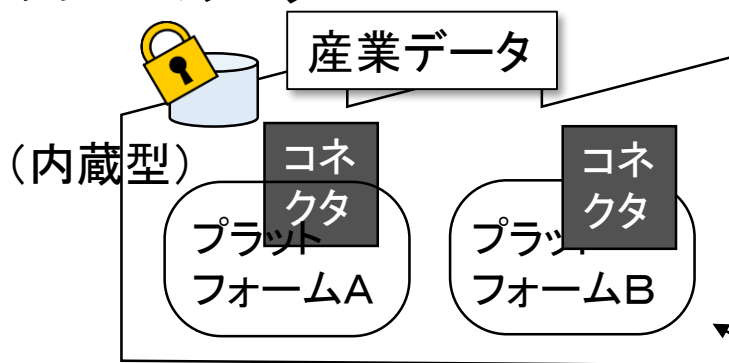
産業データ



データプロファイル

データフォーマット  
サービス対象制約  
セキュリティ情報

企業内連携  
フレームワーク



複数のプラットフォームが  
企業内に存在する場合

産業データ



コネクタ

コネクタ

コネクタ

企業間連携  
フレームワーク  
(サーバー型)



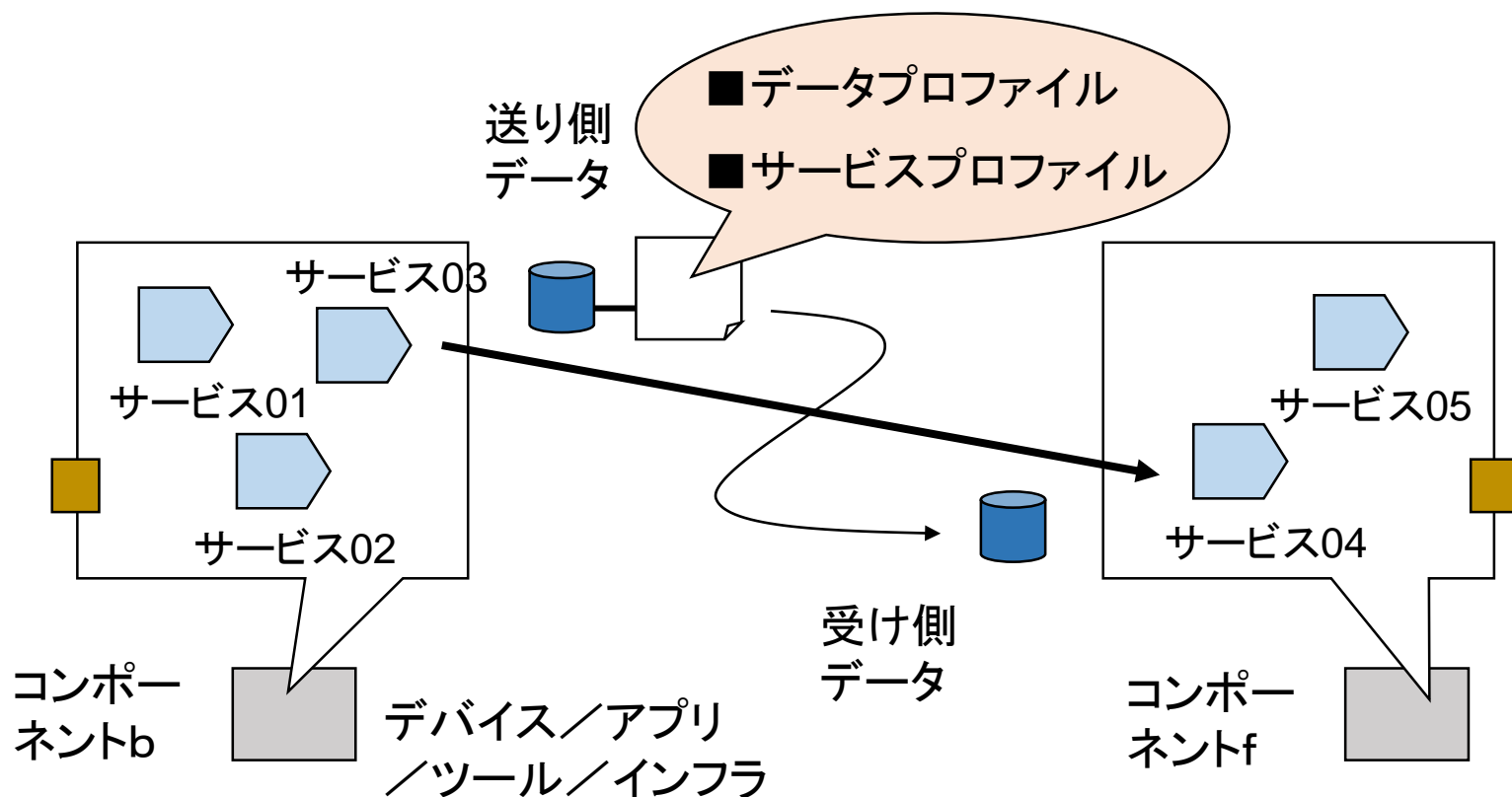
System of  
Systems(SoS)

企業間で複数のプラット  
フォームをつなげる場合

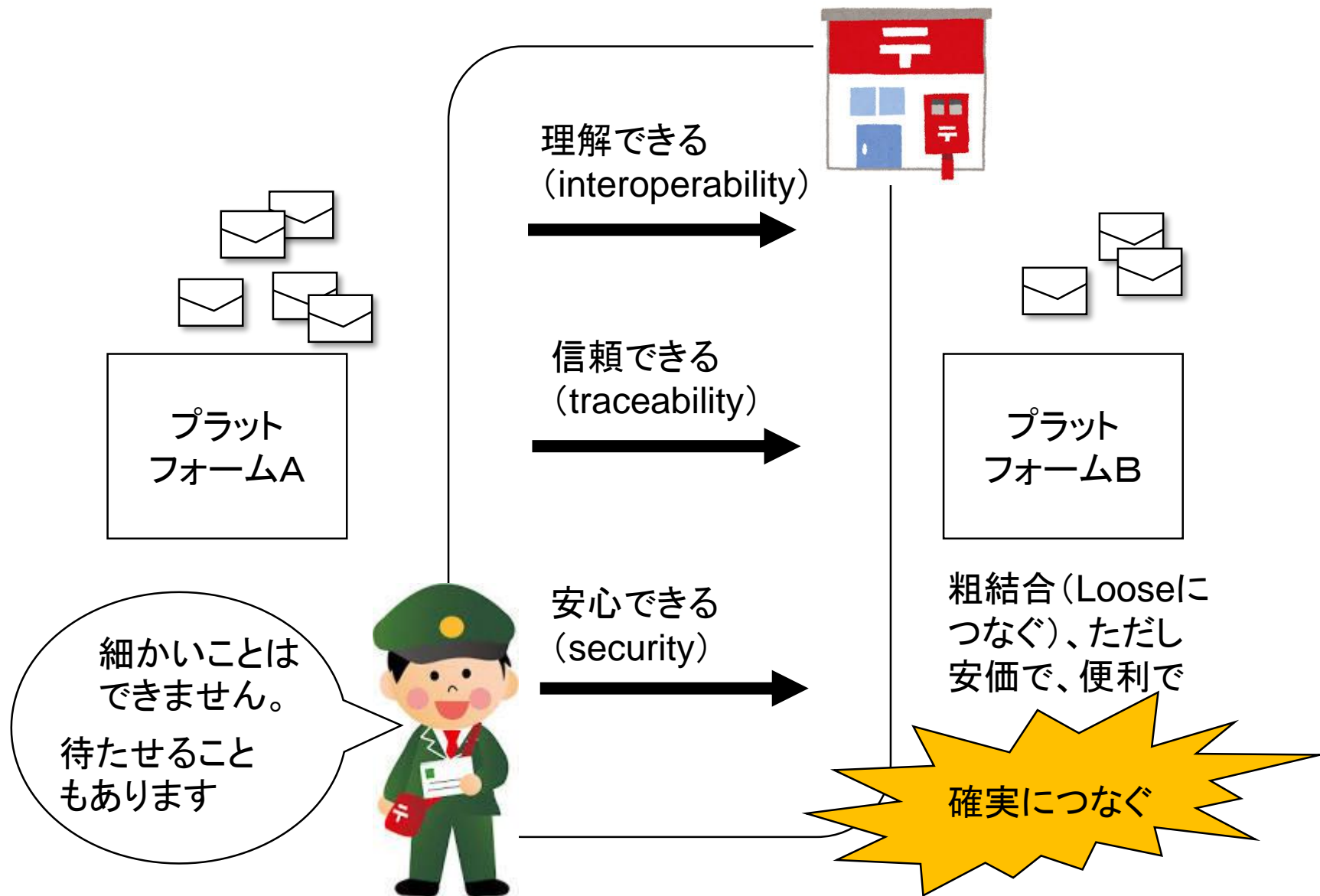
# コンポーネントとサービスの関係

**データプロファイル**は、送信するデータの構造と意味を、内容ともに、あるいはその内容に先立って伝えるための情報である。

**サービスプロファイル**は、送信するデータが処理されるサービスを規定し、想定外のデータ流出を防ぐとともに、データの意味の解釈ちがいを減らす。



# どうやってつなぐのか？



# データ流通市場との対比

## プラットフォーム連携

- 二者間のデータ通信
- データは手段
- データは蓄積しない
- 共通フォーマット不要
- 生成者がオーナー
- 小規模なサーバー
- 分散管理が容易
- スモールスタート可能

## データ流通市場

- 第三者が介在
- データを取引
- データを保持運用
- フォーマットを統一
- オーナシップ曖昧
- 大規模なサーバー
- 分散管理に不向き
- 一定数の参加者必要